

日 本 人
收 容 所
知 事 局
三 月 三 十 四
日
水 曜 日
第 五 九 號

戰時不正用枚事件

（華府三月三日所報）カーネギー・イリノイ
ス鋼鉄会社社長レスター・ペリーは本日上院
ツルマン委員会に出頭して次の如き證言を
した。「アイリノイ・バス・ナッシュ（婦人化学子実験者
の證言の如く我が会社に於て過去に使用せ
し鋼鉄の品質は甚だ劣等であつたこと
を發見した張る等並に報告に記載さ
れたるものと實質上に斯くも相違なき相
違ふありしことは該会社の重役共の思
ひよらぬことであり誠に米国内の不祥
事として悲願の外なし」
（註）此疑獄は同会社就業員が作業の度毎
に不良と認め程不良材料を採つたことに端を起
し昨年下半季はヒトリノ六供給政府用諸
機材に対して同会社の用材検査官ジョー
ジョー・ガイがペンシルベニア州のアーレン化学子実験
所員の劣等驗表に基いて作業部は轉

送使用せしめ居たものである相當關係者多
く議会は終にミソラ・ハルシュ民主黨上院
議員ワイルマンを首領とする調査委員
会を以て嚴重なる探査を開始し先づ
当該容疑会社社長を召喚せし結果
がある。

北阿總攻撃作戦

中央エーニシ方面は
獨逸軍猛烈に再度逆襲す

（北阿聯合軍本營附國際通信社報） 獨逸
の戦車隊並に歩兵隊は中央エーニシの
南部から北進中の米國第五軍に對して
強烈なる逆襲を試みた戦區はエルゲ
ターの東南八哩の地点であるこの獨逸
軍はヒエルの指揮下に入り聖大軍の到
着せしむるは未だ明かならざるも既に
一昨日逆襲を試み相互死傷者あり
たる後なるに再度の逆襲を始めたもの
であり米國軍は甚だ苦闘中である

英國第八軍復讐

コンル軍左翼突破る

（北阿聯合軍本營附國際通信社報）英國第八軍
モンゴメリはマレス線を突破し地中海近
く進出したが其の大功の大半は空軍の
援助に依ると言はれるモンゴメリは昨年
後及にコルを奪へてエール・メル・ド・ラ・

戦大勝を博したが今回は自らのロムを
追いつてス銀の再び勝利と見せ始めた
ソートレーキ日本人センターの田中メリ
さんがお父さんに面会したのが軍
當局にパーミットを給せし願し
て居る。お父さんは当所にお出
ひなる筈であるが田中姓が多い
ので判然しなないのでま心當りの方
は至急急務三大隊知事局へお
申し出さるう

○知事局より

以来古河内ドクターの献身的な奉
仕に列し予三大隊知事局では左の感
謝状並に記念品を贈り謝意を表
した記念品は清水一太郎代より譲
り受けし見事なモノのモノである

感謝状

貴下へ我等留同胞の衛生及疾
病治療の爲に献身的に誠心以
て終始一貫して克己の職
責を履行せられたる其の恩澤に
浴スル所甚大なり
茲に記念品を贈り聊々感謝意
を表す

昭和十八年三月三十一日
第三大隊知事 杉山千代春
副知事 中林小四郎
書記長 大角拾吉

第九中隊 安武嘉一郎
第十中隊 二宮 環
第十一中隊 笠井健治
第十二中隊 星宮外介
古河内貞一殿

○知事局へ寄附
一 金拾貳拾五拾仙故塩田孫平氏遺族
一 金七拾五拾八仙笠野家孫平氏遺族
一 金五 此一 早子千子氏遺族

送吟友田村君再
之懐多意収容所
春風吹度 客心悲
幾度轉蓬来 不期
再送君 修多不意
繞砂厚意寄新詩

送橋本先生
东西南北風塵際
看夏秋 空雲水心
南道大 宏天理樂
人生試 錄筆浮沈
都々逸 出卷に際して
西と東に別れはす礼と
さうは 五さらば比留さんさうは
横濱埋頭で待てます

松 野 年
松 野 年

